

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.10.No218

10月号

目次

ヘリテージマネージメント 専門職育成講座報告	1
特集 平成26年度北海道 赤レンガ建築賞受賞作品	2
まちづくりフォーラム報告・ 講習会のご案内	4
実行委員会報告	5
【事業・総務】	
支部だより	6
【宗谷・上富良野・網走】	
青年・女性の窓	7
[No.73 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Information	8

URL <http://www.h-ab.com/>



ヘリテージ・マネージメント専門職育成講座 二期生からの中間報告

北海道建築士会専務理事 鈴木 功一（札幌支部）

1. 受講状況

昨年に引き続き、5月から北海道でのヘリテージ・マネージメント講座が始まり、既に51時間の講座を終了しています。今年は、ヘリテージ・マネージャーが36名、コーディネーターが15名、合計51名で昨年より多い受講者です。講義は、講師陣がそれぞれ極めた知識を御披露くださるので大変興味深く、私語も少なく皆真剣に聞いています。

2. ヘリテージ・マネージャーの地域バランス

昨年の1期生は、道東の方が受講されなかったので、オホーツク地域が空白地域でしたが、今年は、紋別支部の高野支部長ほか美幌から1名と北見から1名参加しています。

3名の方が、終了しますと全道を網羅し、調査に対応できることとなります。

3. 私が見つけた文化財

最終講義は、「私が見つけた文化財」でした。受講者を6チームに分け、各チームが地域のお宝を探し、レポートとしてまとめる作業をすることになっています。この目的は、受講者自らの勉強のため、自分達が見つけたお宝的建物について、登録文化財の申請に必要な資料を整え発表するというものです。

以下、私共の調査の混乱状況を記します。

(1) 先日我Cチーム9名は、I市に集まり早速配置図、1階及び2階平面図、立面図に取組んだのですが、現存する建物は、建築年次の平面図とは変わっていてすべて手作業で寸法を平面図にメモしましたが、終わってみるとたくさんの数字が図面に書かれており、どこの数字が解らなくなっていました。

(2) I市の課税台帳に構造「コンブロック」と書かれていましたので、昭和2年にコンクリートブロック造ってあったの？

だとすると、1階上端に臥梁はあるのか？確認できるかなど悩みました。



結局は、木造の構造で柱間にブロックを積んでいくことが解りました。当時としては、大変近代的な外壁だったのででしょうか。

建設後50年以上経っている建物は、なかなか一筋縄ではいかないと反省しています。

これらの調査は、一人でこなすには難しいところが有り、他のマネージャーやコーディネーターとの連携の必要性を感じています。



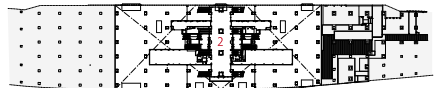
平成26年度 北海道赤レンガ建築賞受賞作品 「川のある駅」 JR旭川駅



- 建築主 北海道旅客鉄道株式会社、旭川市
- 設計者 旭川高架旭川駅舎設計共同企業体
(日本交通技術株式会社、
株式会社内藤廣建築設計事務所)
- 施工者 旭川高架駅工区工事共同企業体
(清水建設株式会社、株式会社熊谷組)
- 建築概要 所在地：旭川市官前通西4153-1
主要用途：駅舎・観光等交流施設
構造及び階数：鉄骨造3階建
建築面積：12,108㎡
延べ面積：15,053㎡
竣工年月日：平成23年11月23日



ホーム階平面図



2階平面図



1階平面図

- 1 乗降場
- 2 ラチ内コンコース
- 3 改札口
- 4 南北連絡通路
- 5 ラチ外コンコース
- 6 待合室
- 7 観光物産情報センター
- 8 彫刻美術館
ステーションギャラリー

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

〈北彩都あさひかわ事業〉本施設は、旭川駅付近鉄道高架化事業により鉄道及び隣接する忠別川により分断されていた南北市街地を結び、既存都市部を駅南側に拡大することで、中心部の復権を図るとともに、「川のまち旭川」に相応しい豊かな自然と調和した拠点形成を目的として建設されました。

〈旭川駅に名前を刻むプロジェクト〉4代目として生まれ変わる駅舎に、市民をはじめとする多くの方々に愛着と親しみを持って頂き、訪れた人々を出迎え、見送る、ホスピタリティの表現として、駅舎内装壁材の下見坂に名前を刻印する「旭川駅に名前を刻むプロジェクト」が、東海大学旭川キャンパスや旭川商工会議所など市内9団体による実行委員会により実施され、全国から応募頂いた1万人の名前が刻印されたピープルウォールがラチ内コンコースを埋め尽くしています。

□設計の特徴

〈自然と調和した四叉柱を持つ大屋根構造〉ホーム上家を支える構造は、北海道の樹をイメージした4本の組柱（四叉柱）により大屋根トラスを受け持つ構造とし、四叉柱と大屋根トラスがまるで樹林にいるかのようなダイナミックな空間を演出し、トップライトの採用で明るいホーム空間としています。

〈新たな「旭川物語」のはじまり〉外壁にはガラスのカーテンウォールを配し、インターフェイスとして「自然」と「まち」を繋ぎ、主に道産タモ材により構成される木材で覆われた内部空間は「温もり」と「やさしさ」を感じられるようデザインされており、特に夜間には駅舎全体が「光の箱」となり、街に安心感を与え、特徴的なホーム階の四叉柱と内部の木材で仕上げられたコアが印象的に照らし出されています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

〈木材と耐火建築物の戦い〉本建物には耐火建築物の性能が要求されているため、内装材として使用するため準不燃化の必要があり、薬液注入の使用など試行錯誤の末、防火認定を取得しました。また、細部にわたるディテールの検討とあわせて多くの時間を費やし施工直前まで検討を重ねました。

□完成後の地域への貢献度等

〈地域と芸術・文化を発信する駅〉本施設には、旭川市が運営する地元及び周辺自治体の情報拠点となる観光物産情報センターや芸術・文化の発信基地として彫刻美術館ステーションギャラリーが設置されたほか、駅の大空間を活用した「駅マルシェ」等の開催で鉄道利用のお客様はもとより多くの市民が訪れ、旭川の中心としての復権を果たしました。また、「駅舎+広場+忠別川」による自然と都市の共生を図った結果、「普段使い」で駅を訪れる市民が増え都心のオアシスとなっています。



審査講評

旭川市民はもとより北海道民の誇りとなるような新しい駅舎が完成した。新駅舎は初代から数えて4代目になる。3代目のRC造駅舎（1960建設）は水平線を強調した近代建築で、民衆駅と呼ばれ長く親しまれてきた。駅から北に延びる平和通買物公園は1972年に全国に先駆けた歩行者専用道路に生まれ変わり、周辺では街区単位の再開発事業が進んだ。しかし、駅周辺での大規模な都市計画は以降行われず、中心市街地は徐々にその活力を失ってきた。こうした背景の下、地方都市の活力再生を願い駅周辺整備事業「北彩都あさひかわ」（土地区画整理事業、鉄道高架事業、河川空間整備事業など約86ha）がスタートした。それは自然と都市の共生を目指した次世代中心市街地モデルであり、その核として位置付けられたのが「川のある駅」だ。

駅舎の計画は凡そ20余年前に鉄道高架計画と共に始まり、数々の案が模索されて今の形となった。地上階は高架下中央に旅客・業務施設を集中させ、その東西に配されたコンコースは市街地道路軸と揃えて市街地と河川緑地を繋ぐ。さらに東西のコンコースを市街地側の北通路、河川緑地側の南通路で結び、施設内の回遊性を確保した。高架上の4面7線プラットホームからは、樹林構造と呼ばれる四又鉄骨柱20本が全ホームを覆う60m×180mの大屋根を支える。河川側と市街地側は地上から軒まで高さ23mのガラスカーテンウォールとなり、昼は空や緑を写し、夜は行燈のように地上階の板壁の温かみとライトアップされた樹林構造を暗闇に浮かび上がらせる。列車で到着した来訪者は、ガラス越しに見える大雪山の山々と河川、そして商業業務ビルや集合住宅の建ち並ぶ中心市街地の位置関係が瞬時に理解できる。その機能も、街側の固い仕上げによる大きな広場と川側の緑あふれる公園を繋ぐように観光情報案内センターや市立彫刻美術館の分館、郵便局などを抱え、様々な催事が可能な広がりのあるコンコースやレンタル自転車、歩くスキー板の提供をするなど、複合化している。また、内装には地元の広葉樹タモ材をふんだんに使い、その一部には駅舎完成の記念に一万人の名前が刻まれた。そして駅前通りの平和通買物公園がコンコースを突き抜けて河川にテラスを伸ばす軸上には、美しい彫刻が市民たちから寄贈された。

建築計画、詳細、空間活用の可能性等全ての点において極めて質の高い建築と言える。新駅舎の完成で旭川市民は市庁舎、買物公園と並ぶ街のランドマークを手に入れたといえよう。

地方拠点都市の再生と地域の良さを次世代に伝えることを願って着手した駅周辺開発事業は、この駅舎の完成で一段落した。この大事業を成し遂げたすべての人々に敬意を表すると共に、これからの100年を見据えた優れた駅舎建築に仕上げたことを高く評価したい。

これらの点を踏まえ、地域社会の発展に大きく貢献した建築物として高く評価し、今年度の北海道赤レンガ建築賞を贈る。

（北海道赤レンガ建築賞審査委員長 大野 仰一）



「第5回まちづくりフォーラム in 江差」の報告

まちづくり委員会副委員長 鈴木 利治 (恵庭支部)

7月18日(土)、第5回になる「まちづくりフォーラム」を道南の江差町で開催しました。

建築士会江差支部会員、江差町役場建築課、歴町商店街の方々とまちづくり委員の合計31名の参加者でした。歴史的建築物が立ち並ぶ歴町通りを「まちあるき」した後、江差町会館で「まちづくりフォーラム」を開催しました。「まちあるき」はあいにくの小雨の中でしたが、江差町教育委員会社会教育課地域文化係の宮原浩氏の説明をお聞きしながら、姥神大神宮、有形民俗文化財の横山家、国重要文化財の旧中村家、有形民俗文化財の旧檜山爾志郡役所などの貴重な歴史的建築物を見学しました。最近建設された新しい建物も、外観デザインに規制を掛けることで歴史的建築物と一体感のある統一された町並みが形成されていました。その後の「まちづくりフォーラム」は歴町商店街前理事長、現監事の室谷元男氏に「江差歴町商店街協同組合の取組」というテーマで講演していただきました。北前船による物資の流通が江差の歴史や文化を形作ったというお話や、「住民が主人公のまちづくり」の重要性や身の丈に合ったまちづくりなどといったお話を大変興味深くお聞きしました。次にこれまで行われた「まちづくりフォーラム」の報告をはさんで、「私の移動履歴から考えるまちづくり」というテーマでディスカッションを行いました。地元に住み続けている人や地元に戻ってきたUターンの人、他の地域

から来たIターンの人など、様々な立場の人から見た江差について全員の意見をお聞きしたところ、江差は住民の意識が高い、地元愛が強い、人懐っこくお節介などの意見が多かった反面、排他的な面があるなどの意見もあり、歴史の古さは地域住民の間関係の古さでもあるのだと感じました。いろいろな話しをお聞きして、江差は歴史的建築物や江差追分などといった地域の貴重な資産をまちづくりに有効に取り入れながら、官と民とが協働して程良い関係を構築している印象を持ちました。フォーラム終了後に行われた懇親会では、第25回江差追分全国大会優勝者の菊池勲氏による生の江差追分を目の前で聞き、本物の歌声の迫力に圧倒されました。皆さんも是非、機会があれば江差を訪れて、いにしえの歴史を肌で感じては如何でしょうか。



平成27年度定期講習受講のご案内

平成24年度(平成24年4月～25年3月)受講者、また平成24年度建築士試験に合格された方で建築士事務所に所属されている方は、今年度が受講年度です。

本会が開催する定期講習を受講された方へは、北海道建築士会本部が主催する講習会(建築基準法講習会、建築技術講習会(札幌開催のみ)など)を対象に受講翌年の3月31日迄有効な割引券(受講は1回限り)を発行します。(割引券は、定期講習当日配布します)

割引額 会員 2,000円(会員外1,000円)

受付日: 8月3日～

第三期		第四期	
開催地	開催日	開催地	開催日
北斗市	10月14日	釧路市	2月17日
帯広市	10月22日	北見市	2月26日
札幌市	11月18日	苫小牧市	3月3日
室蘭市	11月19日	札幌市	3月16日
旭川市	11月27日		

※講習の詳細については、本会ホームページをご覧ください。

平成27年度 応急危険度判定認定講習会のご案内

今年度も、下記日程で開催を予定しておりますので、皆様の積極的な受講をお待ちしております。なお、今回、更新対象の方へは直接ご案内しております。認定証の有効期限が切れている方、新規で受講希望の方は、各支部または本部事務局で配布している受講申込書にて本部事務局へ申込みください。(支部での受付はしません。)受講申込書ほか各種様式は、本会ホームページ(<http://www.h-ab.com/>)からもダウンロードできます。

開催地	開催年月日	備考(同時開催)	開催地	開催年月日	備考(同時開催)
札幌市	10月22日		浦河町	12月3日	
岩見沢市	11月10日		帯広市	12月9日	
室蘭市	11月12日	応急危険度判定机上訓練あり	旭川市	1月22日	
網走市	11月18日	応急危険度判定机上訓練あり	江差町	2月4日	応急危険度判定机上訓練あり
函館市	11月19日	応急危険度判定机上訓練あり	苫小牧市	2月5日	応急危険度判定机上訓練あり
中標津町	11月19日	応急危険度判定机上訓練あり	釧路市	2月24日	応急危険度判定机上訓練あり
留萌市	11月19日		札幌市	2月	
小樽市	11月20日	応急危険度判定机上訓練あり	稚内市	2月	

委員会報告

事業委員会

副委員長 内海 純一（札幌支部）



「建築技術講習会」

テーマを絞り込んでいます。開催日程を支部の皆さんが自由に設定できれば、参加される人数も増えるのではと数年試みましたが、思うようには行きませんでした。講習会テーマをどう絞り込むのが良いか、木造とRC等の需要はどちらがあるか等と委員全員で知恵を絞って整理中です。会員の皆さんが日頃知りたいと思っているような内容を網羅し、年明け早々にテキストを完成、2・3月にはまず本部もしくは札幌で開催したいと考えています。その際は是非この講習会をご活用ください。

「他の講習会」

日本建築士会連合会や日本建築防災協会などからも、インスペクター（住宅診断士）養成講座・建築物の構造関係技術基準講習会・建築士法第22条の4に基づく技術研修などの実施依頼が来ています。士法に基づく技術研修はテキストも6種類ほどあります。戸建てから集合住宅、設計から施工や構造計算などテキストの組み合わせで講習時間も変動しますので、内容や所要時間も確認して今後実施していきたいと考えています。こちらも是非ご活用ください。

「応援」

今年度に入って2回ほど女性委員会の皆さんとお会いしています。平成11年度から活動をスタートさせ平成25年度から北海道の委託業務となった女性委員会による「建築士による家庭科住教育出張講座」は、平成27年度も全道各地の高校から応募があったそうです。講師の確保など事業委員会でもお手伝いしたいと考え建築士向けセミナーにも数名参加しました。今後益々のご活躍にも期待しています。



住教育建築士向けセミナー（札幌市）

幅広い世代に向けて

総務委員会

委員長 西岡 誠（札幌支部）



会員の皆様におかれましては、日ごろから建築士会へのご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。

建築士会の活動も、青年委員会の幼児、児童を対象とした「建築のお仕事体験」や、女性委員会の高校生を対象とした「建築士による家庭科住教育出張講座」など、若年世代に向けた活動が行われており、建築士自体を外にアピールするよい機会となっております。

今後、これらの活動を通じて建築士への理解を深めた子供たちが、将来建築士に対してよき理解者になるとともに、その中の幾人かでも建築に興味を持ち、建築士として歩んでくれたらと願っています。総務委員会としましても、それらの活動が円滑に行われるよう、縁の下の力持ちでありたいと考えております。

若い人たちや現役世代で活躍する建築士への働きかけは従来から建築士会の活動として行われてきましたが、少子高齢化の中、一線から退かれた方、あるいは私自身のようにあと少しで退く世代（シルバー世代、シニア世代というのでしょうか）の建築士の方々への働きかけも必要ではないかという議論を総務委員会の中で話し合っております。

この話し合いは建築士会の会員としてどう繋ぎ止めるかという後ろ向きの発想ではなく、働ける、社会に貢献できる経験豊かな建築士として、建築士会の重要な役割を担ってもらう世代としてどういう仕組みが考えられるかという前向きな話し合いです。

渡辺淳一の造語のようですが、元気でアクティブな高齢者を「プラチナ世代」というそうです。今、総務委員会ではこのプラチナ世代による「プラチナ委員会」の可能性について検討しつつあります。

建築を取り巻く状況は若干の不安定さはあるものの、ひところの苦境を抜け出し、資格者不足が叫ばれております。経験豊富でかつ熟練した建築士である頭脳を使わない手はありません。まだまだ社会が求めていると思います。

検討は始まったばかりで、これからどのようなのか予測が付きません。会員の皆様方におかれましても、こんなことが考えられないか、こうしたらよいのではといったご意見やご指導がありましたらご教授ください。よろしく願いいたします。

幅広い世代のために。

宗谷支部

「北門神社例大祭 神輿渡御」揃いの袴纏で威勢よく！

青年部長
堀 毅



“最北のまち稚内”に夏の訪れを告げる「北門神社例大祭」。

7月4日から6日までの3日間開催され、7月5日に行われる神輿渡御へ、建築士会活動の「地域貢献事業」と「建築士の日事業」の一環として毎年参加している。

“活気あるまちづくりと次代を担う子供たちへの地域の伝統と文化の継承へ”。集まった担ぎ手は総勢405名。

我々青年部は、今まで神輿の他に様々な場面を着てきた袴纏を新調し、“気分一新”同志を募り25名で参加した。



青年部とはいえ、無理の利かない歳の人もおり、目標は“全員で無事に戻ってくること”。

6時に集合して揃いの袴纏に着

替え、景気づけに一杯。(二杯、三杯と続く人も…)。9時に出発し、神輿を担いで市内約15kmの道のりを6時間掛けて練り歩く。

我々担ぎ手の“威勢の良さ”と“男気”が、まちに活気を与え、「神輿を担ぎたい」と思う子供たちや市民が増えるように、今後も地域の活性化に繋がるこの活動を含め、地域に根差した建築士活動を行っていきたいと思います。

最後に、参加された皆様、大変お疲れさまでした。

上富良野支部

景観と建築

青年部長
川田 雅樹



我が支部は、“人々の暮らしと自然が調和する美しいまち”上富良野町に住む、または働く建築士が集っています。

悠然とそびえる十勝岳のふもとに広がるまちには、春から夏にかけてラベンダーをはじめとする様々な花が咲き、その美しい景観を守り活かしていくため、かみふらの景観づくり条例が策定されています。

建築物はまちの景観要素のひとつとして不可欠であり、私たちが建てた建築物はその場所にずっと残ります。

1棟の住宅を設計する際、外観のデザインや全体のイメージについて施主の希望を叶えることはとても重要です。

ただ、私たちは建築の専門家として少し離れた視点から考え、周囲の景観と調和した素材や色を取り入れたデザインを提案していくことが出来ると思います。

そのため日頃からまちの景観に意識を向けてみたり、新しい建築

材料や工法の勉強をしていかなければなりません。

私は旅先で美しいまち並みや心地良いまち並みを見つけると写真に納め、仕事で行き詰まったときなどにその写真を参考にすることがよくあります。

私たち建築士は景観づくりの一旦を担う者としてそれぞれの役割を果たし、支部としてもまちの景観のために何が出来、どう関わっていけるか考え、そして実行していく必要があります。

網走支部

一緒にもの作り

事務局長
山口 悟



今年の「建築士の日事業」の一つとして、3年間継続してきた巣箱作りから小さなプランターを載せる花台を親、保護者と子供たちが一緒に制作作業を行いました。子供16名、会員含めて約30名、親子で一緒に共同作業で、親子の触れ合いを通して「もの作り」の楽しさを体験してもらいました。地元の建築技能士の方たちが花台

キットを作りやすいように改良して組み立て、釘を打てるだけのキットを、日頃から「もの作り」に携わっている会員が参加者に釘打ち、組み立てのサポートをしました。子供たちは少しずつ形になって完成していく花台に興味深いまなざしで見っていました。

この経験を通して将来、建築のもの作りの仕事に就いてもらいたいと期待しています。

同じく継続事業として震災復興チャリティビールパーティ(21回)を開催して益金を義援金とし



て寄付しています。

今年で11回目となる高齢者施設慰問活動として音楽コンサートの支援を続けています。



女性建築士の集い2015in室蘭

室蘭支部 吉田 幸恵

去る7月25日、港まつりで賑わう室蘭で女性建築士の集いを行いました。業務等でお忙しい中、全道各地の女性建築士の皆さんなど総勢24名のご参加をいただきました。

登録文化財に指定を受けた旧室蘭駅（現、観光協会）のホールにて、室蘭工業大学の歴史的建造物の研究をされている助教武田明純先生より『室蘭の歴史的建造物について』のご講演を拝聴しました。室蘭には、大黒島灯台、日鋼のレンガ工場群など様々な歴史的建造物が50箇所以上あり、まだ発見されていない建物などが多くあるということを知りました。

講演のあとは街歩きだったので、当日は生憎の雨。前日まで快晴だったのに…。私の日頃の行いでしょうか…。

街歩きは旧室蘭駅からスタート。私が案内をさせていただきました。

した。旧室蘭駅の正面にある金港ビルでは、数十年前、建物のそばに出ていた湧き水で『金港サイダー』が製造され、市民に愛されていたという話。解体が決まってしまった長谷川貿易ビルのこと。日本一の坂の名前がついた由来などを説明いたしました。



木骨レンガ造の山口紙店では内部見学も受け入れてくださり、ご主人が子供の頃から昼夜問わず働いた、という思い出も語っていただきました。また、当時の室蘭は大変景気がよく、仕舞いきれないほどの売上金が入っていたという家紋入りの立派な金庫や大黒柱などを見せていただきました。

最後にお伺いしたのは、鯨八幡の愛称もある室蘭八幡宮です。こ

こは、明治元年に崎守町という今の場所とは別の町に創立されました。札幌本道の完成により新室蘭に移転となった際、社殿造営の建設費が不足。しかしながら、たまたま寄り鯨があり、開拓使に払い下げた売却金で建ったことからその愛称で呼ばれるようになったのだそうです。他に、社殿は流れ造であること、本堂に使用されている木材を売ってほしいと木材屋に持ち込まれた裏話など、普段聞けないような話が聞けました。

宮司さんは、室蘭の文化財審議委員のご経験もあり、建築の知識にもあかるく、『専門家として質問はありませんか?』という宮司さんからの問いにはこちらが困るほどでした。室蘭の地名の由来は、坂の多い街：モルラニエというアイヌ語から来ています。ただでさえ坂が多い道中、八幡宮への階段は200段ありました。足元が悪い中登ってくださったことに感謝しています。

今年参加された女性建築士の皆さんは、来年、室蘭での全道大会も親しみを持って来蘭されて下さることと思います。



連載第3回(全4回) ライフオーガナイザーについて

1級建築士・ライフオーガナイザー
函館支部 岩崎 美乃

仕事や家事に追われて、時間が足りない!と思うことがありますよね。時間は見えないし、捉えどころがありません。でも、足りない時間は洋服がギューギュー入ったクローゼットと同じなのです。

そんな時間の整理のお手伝いをするのもライフオーガナイザーのお仕事です。

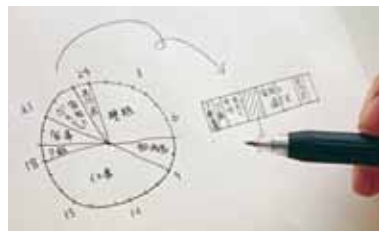
まずは、普段何気なく過ごしている時間を目に見えるようにすることから始めます。使うのは、円や帯のグラフ。小学生の夏休みの時間割表を覚えていますか?

睡眠、仕事、通勤時間、食事やお風呂、歯磨き、身支度などの時間をその中に書き入れてみます。

どんな「こと」を「いつ」しているのか、目にみえる形にすることで優先順位を決め、自分に残されたエネルギーを考えることが時間の整理に効果的なのです。

時間の整理は行動の整理!今日の自分が明日の自分とつながっています。なりたいたい自分につながる時間を作ること!それを意識することが大切です。

次回は情報についてです。



CPD認定プログラム(9月認定)

◆建築士による家庭科住教育出張講座

「北海道幕別高等学校」
 「日程及び会場」10月6日(火) 10:40~12:30
 北海道幕別高等学校(幕別町)

《単位数》 2単位
 「北海道名寄産業高等学校」
 「日程及び会場」10月7日(水) 13:25~15:15
 北海道名寄産業高等学校(名寄市)

《単位数》 2単位
 「北海道夕張高等学校」
 「日程及び会場」10月20日(火) 10:50~12:40
 北海道夕張高等学校(夕張市)

《単位数》 2単位
 「建築士向け住教育研修会」
 「日程及び会場」11月5日(木) 14:00~16:30
 稚内総合文化センター(稚内市)

◆震災建築物応急危険度判定訓練

「日程及び会場」10月6日(火) 13:00~15:30
 石狩市花川北コミュニティセンター(石狩市)

《単位数》 3単位
 ◆平成27年度応急危険度判定士認定講習会
 「日程及び会場」10月22日(木) 13:30~15:30
 北海道自治労会館(札幌市)他15か所
 《単位数》 2単位
 《上記講座・訓練・講習会問合せ先》
 (一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

◆応急危険度判定机上訓練

「日程及び会場」10月17日(土) 14:00~16:30
 稚内市駅前再開発ビル「キタカラ」(稚内市)

《単位数》 3単位
 《問合せ先》 (一社)北海道建築士会宗谷支部
 TEL 0162-23-4810

◆北海道建築技術協会メーソナーリー講演会 ~煉瓦と煉瓦造建築物の構工法~

「日程及び会場」10月16日(金) 10:00~11:40
 道庁赤レンガ(札幌市)

《単位数》 2単位
 ◆平成27年度B I S更新講習会
 「日程及び会場」11月20日(金) 13:30~16:30
 帯広経済センター(帯広市)他3か所
 《単位数》 3単位
 《上記講演会・講習会問合せ先》
 (一社)北海道建築技術協会 TEL 011-251-2794

建築士試験「学科の試験」合格発表

一級建築士(北海道)	受験者数 855名 合格者 107名 合格率:12.5%(全国)18.6%
二級建築士(北海道)	受験者数 816名 合格者 163名 合格率:19.98%(全国)30.1%
木造建築士(北海道)	受験者数 3名 合格者 1名 合格率:33.3%(全国)54.7%

編集後記

先月の紋別の全道大会では、みなさん多くの仲間と会えたのではないのでしょうか。普段SNSなどWEB上での交流でいつも会っているような錯覚にとらわれていたけど、実は顔を合わせて話すのは一年振り、という方も多かったのでは？
 情報委員会では昨年に続き号外を発行しました。会場の雰囲気や真剣な討論から感じることはたくさんありましたが、それらを文章で表現するって難しいですね。
 普段の何気ないメールやSNSでどの程度気持ちが伝わっているんだろう？と不安になってしまいました…。

情報委員会 高松 徹

道士会の動き

道本部の主な会議報告(9月)

◆第3回理事会

- 〈開催日〉9月4日(金)
 〈議題〉※議題については、すべての承認済
- 1) 平成27年一般会計事業報告及び収支状況報告(7月末)について
 - 2) 平成27年特別会計事業報告及び収支状況報告(7月末)について
 - 3) 平成27年一般会計収支予算の補正(案)について
 - 4) 第40回全道大会(紋別大会)決意文(案)について
 - 5) 第41回全道大会(室蘭大会)テーマ(案)について
 - 6) (一社)北海道建築士会定款第9条並びに運営規則第1条及び第2条に係る様式の変更(案)について
 - 7) マイナンバー制度運用開始に伴う(一社)北海道建築士会事務局職員就業規則の改正(案)について
 - 8) 平成27年会費未納者の会誌送付停止時期(案)について
 - 9) (一社)北海道建築士会釧路支部の会費の減額(案)について
 - 10) 継続的な能力の開発の促進に関する規則に基づくプログラム審査評議会及び専攻建築士審査評議会評議員の委嘱(案)について
 - 11) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)について

道本部の主な行事予定(10月)

- 11日 一級・木造建築士設計製図試験
- 30日 第58回建築士会全国大会(石川大会)

関係機関等会議出席状況(10月)

- 20日 建築系CPD協議会運営委員会 高野会長出席
- 29日 日本建築士会連合会理事会 高野会長・石川統括理事出席

情報委員会 オススメイベント

スイスを代表する建築デザイン事務所アトリエ・オイの日本における初個展が、札幌のグランビスタギャラリー サッポロ(札幌グランドホテル内)で開催

9月10日(木)~10月20日(火)

<http://www.axisjiku.com/jp/>

情報委員会委員長/神田 光英
 副委員長/斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
 委員/高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
 鈴木 雅人

北海道建築士 No.218号

印刷 平成27年9月/発行 平成27年10月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011)251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011)811-7151番